

明治七年
八月改正

連語圖

自一至十

2,78



A1

266





明治七年八月改正

連語圖

自一
至十

文部省

連語圖

連語圖

第一

神人 天地 萬物 主宰 善道 信義

祖父 祖母 父母 伯父 叔父 伯母

叔母 親子 兄弟 姊妹 親愛 友愛

神ハ 天地の主宰にして 人の 萬物の靈なり

○善道を以て 身を修め 信義を以て 人に

交る。○親子の間ハ 親愛を主とし 兄弟の際

ハ 友愛を專とす。○親の父を 祖父といひ

親の母を 祖母といふ。○親の兄弟を 伯父

叔父といひ 親の姊妹を 伯母叔母と

いふ

第二

學校 書物 手習 算術 事物 文字

授業 午前 午後 運動 遊歩

學校に出では 書物を讀み 又 手習す

べー。書物は 事物の理を知り 手習は

文字の形を學ぶ。授業の始は 午前

七時 授業の終は 午後三時あり。

讀み書まの外の 算術を學ぶべー。遊

歩を為すの運動の為。運動を為すの

氣を散り 體を養ふがため。運動をいれ

む 又 書物を讀み 手習し 算術を

學ぶ

第三

其處ココ 此處ココ 何處ドコ 何時イツ 往ユク 歸ル

彼カの 此ココの 彼 是 近チカき 遠トホき 町里

朋友 親類 學問 智識 家業 富

君キミ其處ココに居イて 書物シヤモノを讀ユクみ 子コの 此處ココに在アり

て 手習テナラヒも 彼カの小兒コドモは 何處ドコへ往ユクまスや 此ココの

女子メナシの 何時イツ歸ルりトぞ 彼カの 近チカき處トコロの 朋友トモの

宅ウチに往ユクまス 是ココの 遠トホき處トコロの 親類オヤジナシの家ウチより 歸ル

○ 近チカき處トコロの 二ニ三サン町チヨウにすスまス 遠トホき處トコロの 五イチ六ロク里リに

餘アトまり ○ 彼カの 朋友トモの 常トキトキに 學問ガクを 好スみ 是ココの 親類オヤジナシ

に 能スく 家業ケギヤクを 勵ムむ ○ 學問ガクを 好スめば 智識チシキを

増スし 家業ケギヤクを 勵ムめば 富トモを 致ス

第四

地球 日月晝夜 今年 去年 春

夏 秋 冬 東 西 南 北 風 雨 霜

雪 寒 暑 雷 林 叢 花 開 蟲 鳴

地球は 日を周りて轉じ 月の地球に隨ひて

環る。日のある間を晝といひ 日の隠れて

後を夜といふ。朝日のかゝるを東といひ 夕日

の方を西といふ。去年の秋は冷よして霜早

く 今年の春は暖にして雨まゝふり。春の日

林は花開き 秋の夕は蟲鳴く。夏の南風多く

冬の北風多し。夏の暑くしてをりく雷鳴り 冬の寒くして

をりく雪降る。暑き時の草木茂り 寒き時の泉水凍る

第五

穀類 魚類 獸肉 鳥肉 野菜 菓物

水 乳汁 酒 烟草 養生 健康

勉強

日本の人の常は 穀類 魚類 を食し 西洋

の人の常は 常に 獸肉 鳥肉 を食す。野菜は

煮たるを食ふべく 菓物は 熟せざるを

食ふべからず。水と乳汁は 健康をたす

け 酒と烟草は 養生に害あり。勉強は

健康より生り 健康は 養生より来る。

養生の人の食物と飲物をえらび 勉強

の者は 朝寝と晝寝を戒む

第六

衣服 木綿 麻 絹 毛織 單 帷子 袷

綿 八 襦 袷 羽織 帽 袴 長靴 足駄

草履 履

衣服の料は 木綿あり 又麻 絹 毛織あり 暑

き時は 薄き衣服を著 寒き時は 厚き衣服

を著る 薄きものは 單 帷子より 厚きものは 袷 綿

入りあり 袷は 合せたるもの 綿は 綿を

八きよりなるもの 肌は 貼くるもの 襦 袷にして

表は 服を著るものは 羽織より 帽をかぶり 袴を

著る 雨の時は 足駄をはき 又 長靴を著る

晴の日は 草履を用ゐ 又 履をはく

第七

大工左官家柱壁屋根下地軒中塗上塗
棚押入疊建具木瓦石机書架墨硯
筆紙和漢西洋庭池春秋景色朝夕眺望
大工家を造り左官壁を塗る○家の柱をた
て、後より屋根をふき壁の下地を作りて後より土
をぬる○屋根より軒をつけ中塗より上塗をなす
○棚押入をつけ疊建具を入れる○我邦の家の木
にて作り西洋の家瓦石より疊む○前より机を居る
後より書架を置く○机より墨硯筆紙を載せ書架より
和漢西洋の書を積みり○庭よりあまみの花を栽る池
小多くの魚を畜ふ○春秋の景色もあり朝夕の眺望あり

第八

起卧 饑飽 賢愚 富貧 老幼 教問
恥覺 藝誨 厭厭 急緩 走步 躓
疲無益 有用 珍賤 弄棄

朝の五時は起き 夜の十時は卧す。働く時は 勞
を厭さば 食まる時の飽を求めず。賢まへは
事を習ひ 愚なる人への物を教ふ。知らぬ事へ

知りたる人へ 問ふを恥ぢむ。覺えし藝へ 覺えぬ
者へ 誨ふるを厭さむ。急よ走るときは 速けれども
躓くことあり 緩く歩むときは 遅けれども 疲る
こと少し。無益の物の珍しと雖 弄ぶべからず
有用の品の賤しと雖 棄つべからば

第九

前後左右勉惰難易早遲破堅固

長短強弱優劣剛柔曲折撓逆

まべての事 前よのみつをげば 後い必ねろをかふ

なり 左をのみあぐれば 右い必ひまきくたふる○

勉むるとい 惰らぬこと 惰るとい 勉めぬこと○

勉むるとまゝい かさき事も成り易く 惰む時い 易き

ことも成り難し○早く成るものい 破きやましく遅く

なるものい 堅固なり○長きふほこれば 反りて短きふ

劣る事いり 弱きを守れい 遂ふ 強きふ優るとまゝあり○

剛きものい 折ることあり 柔なるものい 曲ることあり

撓まず折れざるい 剛の徳 曲らず逆らへざるい 柔の徳なり

第十

秤目ハ十毛を一釐といひ○十釐を一分といひ

○十分を一匁といひ○千匁を一貫目といふなり

尺の名ハ十毛を一釐といひ○十釐を一分といひ

○十分を一寸といひ○十寸を一尺といひ○十尺

を一丈といふなり

升目ハ十才を一勺といひ○十勺を一合といひ○十

合を一升といひ○十升を一斗といひ○十斗を一斛といふ

地割ハ六尺四方を一坪といひ又一步といふ○

三十歩を一畝といひ○十畝を一段といひ○十

段を一町といふ

路程ハ六十間を一町といひ○三十六町を一里といふ

K110-3,8

漢語圖

明治十五年三月廿五日御届
全 年四月 出版

定價五錢

埼玉縣平民

翻刻出版人

昭華堂

酒井省

吾



武藏國榛澤郡
深谷驛二百十六番地